

日本動物学会第 27 回 (金沢) 大会記事

第 27 回大会は昭和 31 年 10 月 10～13 日にわたって金沢大学に於て開催され、参加全員 345 名、一般講演 312 題に及ぶ盛会であつた。一般講演は 6 会場において同時に行われ、金沢大学法文学部階段教室 4 室、中講堂及び教育学部音楽ホールがこれに当てられた。その他に郷土動物展覧室・休憩室 (学生ホール) 等が用意された。

大会並に関係行事は次の通りであつた。

1. 評議員会並に学術会議連絡委員会 (10 月 9 日、丸越百貨店食堂別室) 定例評議員会は午後 3 時より開催、引続き夕食を共にしつつ学術会議動物学研究連絡委員会が行われた。

2. 総会並に受賞者講演 (第 2 日, 10 月 11 日, 午後 1 時～3 時, 法文学部中講堂)。

総会後、次の 31 年度動物学会受賞者記念講演が行われた。朝比奈正二郎 ムカシトンボの形態学的研究。

3. 一般講演 (10 月 10 日, 11 日)

会場	第 1 日 (講演番号)	第 2 日 (講演番号)
I	(発生・実験形態) No. 101～129	(発生・実験形態) No. 130～151
II	(発生・実験形態) No. 201～226	(発生・実験形態) No. 227～251
III	(生 化・生 理) No. 301～336	(生理) No. 337～356
IV	(生 態・生 理) No. 401～434	(生態) No. 435～459
V	(分 類・形 態) No. 501～532	(形態・原生動物) No. 533～548
VI	(形 態・遺 伝) No. 601～628	(形態・心理・生態) No. 629～647

4. 分科討論会 (第 3 日, 10 月 12 日)

〔実験形態学〕 主題: 神経分泌及び下等脊椎動物の脳下垂体の機能。宮脇三春 (北学大), 松本邦夫 (岡山大・理), 花岡謹一郎・大津 高 (山形大・文理), 熊本哲三 (和医大), 榎並 仁 (群馬大・医), 大塚外次 (広島鈴峰女短大), 朝山新一 (大市大・理工), 牧野佐二郎 (北大・理)。

〔生理学〕 主題 I: 魚卵の生理。久佐 守 (山形大・文理), 狩野康比古 (北大・理), 山本時男 (名大・理), 石田寿老 (東大・教養)。

主題 II: メラニン形成。菱田富雄 (名大・理), 大西英爾 (都立大・理), 萩田善一 (阪大・医), 加藤 勝 (京大・理)。

〔生態学〕 主題: 動物における地理的分布と種の分化。太田嘉四夫 (北大・農), 川村智治郎 (広大・理), 八木誠政 (信州大・織)。

〔分類学〕 各専門的の動物群の現状の展望。柳生亮三 (広大・理), 鈴木 実 (東教大・理), 沢田 勇 (奈良学大), 鈴木正将 (広大・理), 平嶋義宏 (九大・農), 堀 克重 (金沢大・理), 中根猛彦 (西京大・農), 朝比奈正二郎 (予研)。

〔原生動物学〕 病原性鞭毛虫類の変異に関する諸問題。猪木正三 (阪大・微研)。

5. 研究集会

研究者懇談会。第 1 日 (10 日) 午後 7 時。上野益三, ヘルシンキにおける国際陸水学会。

ネズミ研究グループ公開討論会。第 2 日 (11 日) 午後 6 時。群集研究と生活史研究の統一。

洞窟地下水生物研究会懇談会。第 3 日 (12 日) 午後 4 時。

社会性昆虫懇談会。第 1 日 (10 日) 午後 4 時。

6. 記念撮影 (第 1 日, 10 月 10 日) 12 時。

金沢大学内スポーツセンターを使用，天候不良を考慮し，屋内撮影を試みた。

7. 懇親会 第 2 日 (10 月 11 日) 6 時 30 分。岡田会頭以下 156 名出席。田谷県知事その他の観迎の挨拶の後，余興として加賀宝生流前ばやし及び金沢芸妓連の山中節の紹介があつた。

8. 見学旅行 第 3, 4 日 (10 月 13, 14 日)。

第 1 班。市内見学 (九谷焼窯元等)，第 2 班。奥能登見学 (九十九湾綱網，時国家等)，第 3 班。加賀温泉めぐり (山中，片山津)，第 4 班。越前永平寺 (永平寺・東尋坊)，第 5 班。黒部立山方面 (遺伝学会に合流)。

9. 郷土動物展覧室

金沢大学・富山大学・福井自然博物館共同で北陸地方の特長的動物の展覧を行い，希望者にはポリエチレン袋入の標品を提供した。主要出品標品：石川県産ハツタミズ，サクラゴカイ，河北潟産汽水ハイドロゾア，内灘砂丘産イカリモンハンミョウ，同砂丘産イソドクグモ，富山湾産ホタルイカ，立山産オコジヨ，モモンガー，福井県産カニ類，北陸地方産昆虫類，その他に金沢市内に於るモリアオガエル，ムササビの分布状況並に生態写真。

この計画は熊野副委員長の発案によるもので，恐らく大会最初の試みと思われるが，多数の標品希望者があり，用意した標品は殆ど品切れに近かつた。

〔後記〕 本大会準備委員会 (委員長 川島弘，副委員長 熊野正雄) は金沢大学理学部生物学教室におかれたが，終始，同教育学部生物学教室，同医学部病理学 (石川) 教室，富山大学文理学部生物学教室，福井大学学芸学部生物学教室の協力を得て運営せられた。

金沢大学理学部動物学科の若手職員並に学生は，本大会開催が教室研究費に影響することを慮り，梅鉢幸重講師を会長とする高中学校生徒生物実験講習会を開設，31 年 1 月より 6 月にわたる半ケ年間，全土・日曜を以てこれに当つた。その結果，7 月にはその収入 5 万円を準備委員会に提供することが出来た。この 5 万円は学会準備の当初資金として極めて貴重なものであつた。また講習会自体も学生達の熱意により，非常に真面目に行われたので，高中学校からも好評を得た。近來の美談として特にここに記したい。

受賞講演

ムカシトンボの形態学的研究 ——比較形態と系統——

朝比奈 正二郎 (予研，昆虫部)

ムカシトンボ (*Epiophlebia superstes*) は現在蜻蛉の 2 大亜目の何れにも入れ難く，中生代の化石蜻蛉の或るものに近いと云われる本邦特産種で，同属の他の 1 種 (*E. laidlawi*) はヒマラヤ山中に産し唯 1 個の未熟幼虫がとれただけのものである。

この研究の目的は，1. ムカシトンボの分類学的位置を明らかにすること，2. 蜻蛉目の比較形態学を再考察すること，3. 蜻蛉類の系統学に対して資料を提出することであるが，“すべての形態が発見され且つ説明されねばならない” という Ferris の主義に出来るだけ沿うように，且つ他群の昆虫体に於ける形態学的相同の発見につとめた。

観察記載した主な形態は次の通りである。頭部の分節，前額の構造，下顎鬚の外來筋，下唇の T 字骨と筋肉の運命，下唇の中片と動鈎の形態，頸板の構造，中胸最前部の小背板，humeral 及び axillary plate の形態と相同，腹板の内骨格，胸部の背筋，翅脈及び翅芽中の気管枝，雄の副性器，胸腹部の中央神経系，雄の生殖細胞塊，前腸の“砂囊”，直腸気管鰓，幼虫の腹部横走筋，而してこれらの構造には，1. 蜻蛉ではじめて記録される形態で，今迄注意を払つて観察されたことのないもの，2. 昆虫類中特異な形態であつて蜻蛉類に於てはじめて記録されるもの，3. ムカシトンボに特異な原始的形態，4. ムカシトンボに特異